

2023 年度

事業計画及び収支予算

自 2023 年 4月 1日

至 2024 年 3月31日

2023 年度事業計画及び収支予算目次

I	総括	1
II	事業本部計画	3
III	支部活動計画	29
IV	収支予算	36

I 総括

2022年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が終息していく可能性を考慮して、2019年度並みの活動が出来ることを前提とした予算を作成した。

しかし、COVID-19は第6波、第7波、第8波と終息どころか依然として猛威を振るうこととなり、残念ながら、2022年度のJASA活動は計画通りにはできなかった。

プラス面として、EdgeTech+展（横浜）では2019年度の実績には届かなかったものの確実に回復の兆しが見えたことは良かった。

政府では、COVID-19は特段の事情が生じない限り、5月8日から2類相当の「新型インフルエンザ等感染症」に該当しないものとして、「5類感染症」に位置付けることになった。

これを受け、今後のJASA活動はウイズコロナとして対応していくことになり、2023年度予算は、改めて2019年度並みの活動をみこんだ2022年度予算と同等額の予算とした。

2023年度はJASAビジョン2030第1中期計画（3ヶ年）の2年目となり、各施策の達成をより確実にするための大事な年になることから、積極的に取り組むことで成果を上げていきたい。

2023 年度の事業計画のもととなる重点項目は以下の通りである。

2023 年度重点事業項目

- ①展示会事業を JASA の基盤事業として、成長性のある収益事業として発展させる。
- ②JASA 運営主体としての、あるべき人材育成事業の追求
- ③2030 年に向けて会員企業から求められる人材育成の追求
- ④技術本部で幅広い需要に応えられる体制強化と、成果物の共有化
- ⑤業界マップの作製とビジネスマッチングの場の提供
- ⑥経営者向けプログラムの構築
- ⑦地方、グローバルに目を向けた人脈形成、人財育成の強化

事業推進本部

- ①JASA 会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場を提供する
- ②業界マップの作製
- ③JASA ホームページの強化と利用促進
- ④官、国内外企業、学生に対する JASA ブランド・ロイヤリティの向上
- ⑤経営者支援の強化

交流促進本部

- ①国際化対応の支援
- ②ビジネスマッチングの場の提供
- ③人脈形成のための人財交流の促進
- ④学生の業界認知度の向上
- ⑤本部事業を通じて、支部と地域団体との連携強化

人材育成事業本部

- ①ET ロボコン 20 年で蓄積した教育コンテンツをベースに教育プログラムの開発・事業化
- ②ETEC コンテンツ強化（オンライン化、海外人材向け英語化）
- ③教育コンテンツ整備と研修実施（有料実施）

技術本部

- ①機能安全とセキュリティ技術の追求及び安全仕様の手順化
- ②サプライチェーンでのセキュリティ委託事業の計画と実施
- ③組込みプラットフォームの構築
- ④モデリング技術の活用推進など先端研究レベルの成果追求
- ⑤AI 活用技術の推進
- ⑥実用 IoT と CPS を実現するエッジコンピューティング技術の推進
- ⑦RISC-V などオープンな技術の発展、振興に貢献

ET 事業本部

- ①応用分野の取り込み
- ②若手来場者の取り込み
- ③業界団体ならではのコンテンツ提供
- ④魅力あるオンライン展示会の実現
- ⑤営業力と出展者支援の強化

支部

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発
- ②Web 会議、Webinar を活用した、支部内にとどまらず、全国レベルでの情報発信
- ③支部の特性を生かした事業を推進し、会員相互の親交の場を提供
- ④該当地域における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化を推進

Ⅱ 事業本部事業計画

事業推進本部

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

『JASA ビジョン 2030』と3 年計画の定着と推進

- ①JASA 会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場を提供
- ②業界マップ(カオスマップ)の整備による協業の推進と、アライアンスの推進
- ③広報活動の再検討(JASA ホームページ、Bulletin JASA、JASA パンフレット)
- ④官、国内外企業、学生に対する JASA ブランド・ロイヤリティの向上
- ⑤「経営者支援」活動の立上げ

2. 達成目標(完了条件)

- ①JASA 会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場を提供
⇒経営者支援を担う WG の設立
- ②業界マップ(カオスマップ)の整備による協業の推進と、アライアンスの推進
⇒広報委員会を支援し、全会員のカオスマップの作製、ET 事業本部と共同で、その普及に務める
- ③広報活動の再検討(JASA ホームページ、Bulletin JASA、JASA パンフレット)
⇒組込みシステム業界の出口戦略を広報委員会を支援して再構築する
- ④官、国内外企業、学生に対する JASA ブランド・ロイヤリティの向上
⇒経産省をはじめとする官庁、地方自事体、他協会との連携を推進する
- ⑤「経営者支援」活動の立上げ
⇒経営者向けのイベントを企画実施する

3. 1 年目の目標

- ①-1 DX 支援委員会への昇格
- ②-1 2023 年度版カオスマップの作製
- ③-1 JASA ホームページの見直し(検索機能の強化)
- ④-1 経産省との定例会実施

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】定例会議(委員会、WG会議)

2023 年3 年計画の推進
四半期ごとに WEB 会議を実施
半期ごとにリアル会議を実施

【事業No.2】支部訪問

本部と支部の連携強化、情報共有
各支部に1 回訪問し、支部の課題、本部の情報提供を実施する
(支部と調整要)6 月北海道 7 月近畿 8 月関東 9 月東北 10 月九州 12 月北陸 2 月中部

【事業No.3】事業継承講演会

経営者支援の施策4 の JASA 会員企業の経営者にとって必要とされる

①知識 ②人脈 ③協創 の場を提供する。

経営者支援の施策4 のイベントとして、事業継承に関する講演会を企画実施し、懇親会を実施する

第1 回目は、京都を想定する

広報委員会

1. 活動概要(2023年度の事業方針)

- ・JASA ホームページを情報ハブとして、協会活動を周知するとともに情報発信力を強化する
- ・Bulletin JASA の内容を見直し、読まれる機関誌を目指し配布先を拡充する。EdgeTech+の「+」部分の企業や大学への配布を企画・立案する
- ・会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に活用する新たな会員情報管理システム。

2. 達成目標(完了条件)

- ・会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に活用する会員情報管理システム(開発第2期)。
- ・ホームページ、メール、Facebook、Twitter の連動性を高め、情報発信力を向上させる
- ・Bulletin JASA は4月号(技術特集)、7月号(技術本部/ETWest)、10月号(座談会/EdgeTech+)、1月号(景況予測)の4回発刊する。
- ・JASA ホームページの拡充に寄与する新規コンテンツを立ち上げる(会員情報管理システムとの連携を視野)

3. 1年目の目標

- ・会員企業間と非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成に活用する会員情報管理システム(開発第2期)
- ・BulletinJASA のコンテンツ見直し。大学への取材を拡充、クミコミライの見直し、弁護士による新連載などを検討
- ・人材交流委員会と連携し大学関連の情報発信を強化
- ・EdgeTech+の「+」部分の企業や大学への BulletinJASA の配布を企画・立案する
- ・会員ビジネス情報メールや公的機関(経産省、総務省、IPA、NEDO など)からの有用な情報を紹介するチャンネルを設ける。
- ・新規に会員となった企業を積極的に BulletinJASA に掲載

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

オンラインでは1時間/1回/月程度の開催とする。リアルでは2時間/1回/月程度。

【事業No.2】会員情報管理システム(第2期:JASAビジョン施策5)

会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に資する。

JASA ビジョンの施策5に該当

JASA 会員の事業分野や新製品、ニュースなどの情報を集約し、会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に活用する新たな会員情報管理システム。

【事業No.3】協会広報(ホームページ)

JASA の情報ハブとして、JASA の活動を潜在的会員やステークホルダーに効果的にアピールする2020年4月にリニューアルした JASA ホームページを JASA の活動状況を集約する情報ハブとして利用する。ET/IoT 展、イノチャレ、ロボコン、プラグフェスト、技術本部の活動をタイムリーに伝える窓口とする。各活動への動線とするとともに、各活動からの受け口を用意し新規会員獲得を図る。

【事業No.4】協会広報(Bulletin JASA)

協会活動の JASA 内外への周知

機関紙「Bulletin JASA」の発行。発行時期は4月、7月、10月、1月。JASA の活動をステークホルダーに伝える広報的な役割だけではなく、JASA ホームページへの良質なコンテンツ供給源として、会員企業のブランディングに資するメディアとして活用する。経済産業省をはじめとした、会員企業が知っておくべき公的情報を発信する

政策提案委員会

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

- ①政府(経産省)施策との情報交換会の実施
- ②IPA との情報交換会の実施
- ③支部との連携による地方経産局等との連携推進

2. 達成目標(完了条件)

- ①年 3 回程度の情報交換会を実施する
- ②年 1 回程度の情報交換を実施する
- ③地方からの声を収集する

3. 1 年目の目標

経産省との連携会議が実施できること
IPA との連携会議が実施できること
経産省、地方との情報共有

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

政策提案委員定例会
JASA として、官への提言等を議論する

【事業No.2】経済産業省定例会

経産省との情報交換(予算決定時期、中間、来年度予算時期)
行政の施策と連携した施策を立てるために、情報交換を 3 回定期的に行う

【事業No.3】IPA 情報交換会

IPA とくに社会基盤センターとの連携を密にする
セキュリティ、アーキテクチャ関連の IPA の動きに関連して情報交換を実施する

交流推進本部

国際交流委員会

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

- 1. 委員会の定期開催
活動検討、状況確認、情報収集(外部講師によるスピーチ)
- 2. グローバル人財紹介セミナー(JASA 内外向け)
地域セミナー(ビジネス交流)と併せて企画の形態をとり、予算計上は本年度から行わない(ビジネス交流負担)
- 3. JASA グローバルフォーラム&国際交流委員会の情報発信
※グローバルフォーラムは 2022 年度と同様、対象国(地域)を選定してセミナー等実施
ET展 : JASA グローバルフォーラム企画・実施、JASA ブースにて委員会活動情報の発信
機関紙 : Bulletin JASA に「国際だより」を設け委員会より情報発信
HP : 国際フォーラムや委員会スピーチでの講演資料を掲載
- 4. 海外視察による海外動向の情報入手
現時点で 4/16~4/22(5 泊 7 日)で海外視察研修(オーストリア)を予定
募集人数は JASA 経営層を中心に 20 名ほど想定

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

期初めの目標、実施項目の確認
事業の検討・計画・推進ならびに委員間の情報交換を行う
2ヶ月毎に委員会を開催し、委員会としての課題を探るため、
識者に依頼して、「委員会スピーチ」の機会を設ける。

【事業No.2】グローバル人財紹介セミナー

JASA 会員にグローバル人財を紹介・供給
本年度はビジネス交流委員会と共同企画とし、予算計上は行わない。基本、「初めて外国人 IT 技術者を迎えるためには！」のセミナーを各地で行う事を想定している。(JASA 中国地域交流セミナー2022 で行うものの Blush Up)

【事業No.3】「JASA グローバルフォーラム」「国際委員会の情報発信」企画・開催

JASA 会員をはじめとした企業に対し、海外の動向及び、国際化推進に向けた情報発信。
ET2022 を利用し、オンラインセミナー「JASA グローバルフォーラム」を企画・開催する。
JASA 配信エリアを活用し、国際委員会の活動を ET 期間中ビデオ上映などで情報発信する。

【事業No.4】海外視察の企画・実施

グローバル化の推進
リアル or バーチャル視察により海外のビジネス状況を把握する。
本年度は ET2022 で講演を頂いたオーストラリア大使館と連携を行い、4月にリアルで海外視察研修を行う予定(JASA 経営層 20 社参加予定)。具体的には、現地の各種団体(IOT アライアンスオーストラリア(関連協会)・JETRO シドニー事務所、大学訪問、企業訪問)との懇親・オーストラリアでの移動(バス)・現地ガイド・コーディネーター・に充てる予定である(渡航滞在費は参加企業負担)。

ビジネス交流委員会

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

各地支部と連携した情報発信
JASA 認知度の向上
企業間のビジネスマッチングや事業創造の機会を創出
2030 ビジョン達成のため、従来セミナーの支部への引継ぎ

2. 達成目標(完了条件)

「各地支部と連携した情報発信」「JASA 認知度向上」
北海道支部・東北支部・北陸支部・九州支部と企画・運営で連携し、地域の需要に沿ったセミナーを開催する。

「企業間のビジネスマッチングや事業創造の機会を創出」
ネットワークングパーティーの実施。他団体との協力強化。オンライン時は、オンライン名刺交換機能を活用する。
セミナー開催スポンサー企業を募集。会場にて、企業・製品紹介のチラシ配布を行う。
地方進出の一助。(コスト削減効果)
「地方他団体、官公庁主催セミナーへの講師派遣」
従来のセミナーだけでなく、地方他団体、官公庁開催主催セミナーへの講師派遣により、JASA プレゼンスを高める。

「2030 ビジョン達成のため、従来セミナーの支部への引継ぎ」(+ α をやるには、支部の協力が必要)
各支部主体で、セミナーを開催できるようにする。

3. 1年目の目標

- ・各支部にて、年1回のセミナー開催
- ・引継ぎ：支部は支部企画セミナー、交流会手配を担当、その他の準備は、ビジネス交流委員会が担当・講
- ・講師派遣：地域問わず、講師派遣の実施（準備期間）

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

企画・打合せ
原則、毎月1回開催

【事業No.2】北海道協業セミナー

支部と連携した情報発信と、JASA プレゼンス向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、北海道支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。

【事業No.3】東北協業セミナー

支部と連携した情報発信と、JASA プレゼンス向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、東北支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。
前年度に引き続き、盛岡県との共催も検討していく。

【事業No.4】北陸協業セミナー

支部と連携した情報発信と、JASA プレゼンス向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、北陸支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。
マッチング HUB 北陸への参加、もしくは、石川県情報システム工業会との共催を検討していく。

【事業No.5】九州協業セミナー

支部と連携した情報発信と、JASA プレゼンス向上、会員獲得
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、九州支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。
モノづくりフェアへの参加も検討を進める。

【事業No.6】中国協業セミナー

支部と連携した情報発信と、JASA プレゼンス向上、会員獲得。
なお、本地域は支部のないエリアのため、会員獲得と共に、支部化を目指す。
交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、3本立てセミナーの開催。
終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、JASA会員獲得を狙う。

【事業No.7】JASA ビジョン 3 か年施策 5-3 地域他団体との連携強化(講師派遣)

業界振興、協会の活性化
支部主導の地域団体との連携を強化する。
従来のセミナー開催のみならず、地方情報系団体、地方官公庁が主催するセミナーへ講師派遣などを行い、JASA のプレゼンスを高める。

人財交流委員会

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

会員の新卒求人活動支援
会員の管理者・幹部候補育成支援と人財交流
学生の業界認知度の向上

2. 達成目標(完了条件)

- ①会員の新卒求人活動支援
会員企業と学生のマッチングイベントである業界研究セミナー(Webinar)と交流祭典(会場型)を展開。
- ②会員の管理者・幹部候補育成支援と人財交流
リアル・オンラインを併用した JASA 会員および外部参加の人財育成および交流支援
- ③学生の業界認知度の向上

3. 1 年目の目標

- ①新卒求人活動支援
開催の要望がある関東、近畿で交流祭典を開催する。
(2回の開催で学生動員数 40 名を目標とする)
- ②管理者・幹部候補生 育成支援
リアル・オンラインによる人財育成プログラムを実施し、JASA 会員、外部の参加者を募る。
(参加者 40 名以上を目標とする)
- ③業界研究セミナーを行い、学生および学校関係者に組み込み業界の認知向上を図る。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

期初めの目標、実施項目の確認
各委員会の実施項目、施策、連携に関する情報交換

【事業No.2】《管理者・幹部候補育成》

会員企業・外部の管理者、幹部候補者育成を支援し交流を促進する
会員企業・外部の管理者、幹部候補者育成のため外部から講師を招聘し、グループワーク形式のセミナーをリアル・オンラインを含めて年4回と成果確認会、最終成果発表会を行う。参加者は全国より募集し、会員間・外部の交流促進も目的とする

【事業No.3】《新卒求人活動支援》関東

学生に業界ならびに協会を PR し、会員企業との交流を図る。
関東圏の学生を中心に、業界・協会の認知を広げる機会を設ける。
その際、会員企業と学生の交流も図る。また学校関係者との継続的な関係構築を図る

【事業No.4】《新卒求人活動支援》近畿

学生に業界ならびに協会を PR し、会員企業との交流を図る。
近畿圏の学生を中心に、業界・協会の認知を広げる機会を設ける。
その際、会員企業と学生の交流も図る。また学校関係者との継続的な関係構築を図る

【事業No.5】《新卒求人活動支援》業界研究セミナー

全国の就活生・就活準備層に対して、組み込みシステム開発業の認知と、就活の動機付けを行うとともに、会員企業の求人市場のアピールの場とする
オンラインセミナーを地域ごとに行う
組み込みサービス業の PR と地域ごとに会員企業の会社紹介、求人情報をアピールする。また、学校関係者との継続的な関係構築を図る

【事業No.6】《新卒求人活動支援》求人情報揭示
電子媒体を活用して、会員の求人情報をアピールする。
会員の求人情報を収集し、JASA ホームページに掲載する。
SNS(Facebook, Twitter 等)で情報露出する。

【事業No.7】《新卒求人活動支援》業界情報発信
学校法人に組み込みシステム開発業界の情報を提供する。
機関誌『BulletinJASA』(年4回)を学校法人に発信する。
* 発送に伴う経費は広報委員会で計上予定。

【事業No.8】《学生の業界認知度向上》学校教育参画・支援
学校教育の実態を調査し、可能な範囲で教育に参画する。
① (初等教育) プログラミング基礎教育の実態把握
② (高等教育) 実践教育カリキュラム策定・検証に参画

人材育成事業本部

ETEC 事業推進委員会

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

業界団体としての、あるべき人材育成事業の追求
ETEC 試験の普及活動(認知度向上・利用拡大)
学習コンテンツ開発
ETEC 試験の品質管理

2. 達成目標(完了条件)

ETEC 試験の普及活動(利用拡大)

Voucher 購入枚数・価格帯の再設定:1~4 枚販売中止(クレジットカード・振込による受験)、
6~49 枚(5%Off)

ETEC 試験の普及活動(認知度向上)

会員紹介キャンペーン:会員に非会員企業をご紹介いただき、一定期間のみ会員料金を適用する。

学習コンテンツ開発

ETEC クラス 1 受験者層向け独習コンテンツ開発(下巻)

ETEC 試験の品質管理

試験問題の更新

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

委員会運営

・委員会(試験運用運営状況の把握、マーケティング、プロモーション) 隔月年 6 回程度

【事業No.2】《試験運用》ETEC クラス 1

ETEC クラス 1 (ks-100) の運営収支

収入:受験料

支出:試験配信手数料、データ抽出・管理、証明カード発行・郵送

【事業No.3】◀試験運用▶ETEC クラス 2

ETEC クラス 2 (ks-200) の運営収支

収入:受験料

支出:試験配信手数料、データ抽出・管理、証明カード発行・郵送

【事業No.4】ツール類作成

ETEC 周辺のツール作成

・周知用資料制作・印刷

・証明書/証明カード発行・発送に伴うツール(専用封筒、クリアファイル等)

【事業No.5】試験版改定

4年ごと試験版を改定する

過去の受験結果を元に、試験品質を分析し、

・試験問題の再校正

・新問題の組み込み

・受験結果の評価の標準化

【事業No.6】認知拡大

ETEC 試験体験を提供し、評価やレベルを体感させる。

○紹介キャンペーン

会員より組込開発企業(非会員)を紹介いただき、一定期間会員料金を適用

○学校(教員)向けに DM

【事業No.7】需要開拓

法人受験市場の需要拡大

○既存利用企業にヒアリングを行い、ETEC を活用した人材評価を周知

○ボリュームディスカウント(まとめ購入割引)の制度設定見直し

○ETSS との関連付け

【事業No.8】学習書籍制作

ETEC クラス 1 受験者層向け独習コンテンツ開発(下巻)

○構成検討

○コンテンツ開発・校正

○販路検討

教育研修コンテンツ事業推進委員会

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

人材育成/人材開発事業強化

教育コンテンツの整備

会員参加し易い有料セミナーの拡充

会員企業における人材育成課題のヒアリング

2. 達成目標(完了条件)

2021 年度に会員企業にヒアリングした研修需要の継続および個別ヒアリング結果を中心に、セミナー実施する。

有料セミナー:新規 6 件、昨年動画オンデマンド 1 件

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

事業推進のための、相談・報告・運営会議
各事業の進捗はデータ共有し、会議の場で運営の相談をする。
隔月開催を予定(必要に応じて随時開催)。

【事業No.2】有料セミナー運営システム

受講料の課金システムを備えた Webinar プラットフォーム“EventHub”の継続利用
EventHub の利用についての管理元確定したく、予算未計上としています。
(ライセンス、機能使用料 計 600,000 見込み)
案 1)本部にて管理 案 2)本部+利用する委員会にて案分
受講者情報収集、受講料代行収納
研修配信、随時再配信、受講データ集積

【事業No.3】人材育成

組込みシステム開発従事者に帯する、スキルアップ研修
○プロジェクトマネジメント
○アジャイル開発の進め方
○ハードウェア知識
他 新規 3 件、昨年度動画オンデマンド 1 件

【事業No.4】人材開発

経営層・管理者層から現場スタッフに対する、会社人としての知識・行動に関する研修
○コンプライアンス・法令遵守
○アジャイル開発受注・契約
等 新規 3 件

【事業No.5】調査

会員企業への個別ヒアリングを実施し、2024 年度以降の講座開発に向けた人材育成課題の把握。
○ 調査項目、ヒアリング項目の選定
○個別ヒアリング実施
○他

外国人技術者教育研修 WG

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

人材育成/人材開発事業強化
外国人材育成コンテンツの整備
会員企業の外国人材育成支援
会員企業の外国人材採用支援

2. 達成目標(完了条件)

2020 年度から 2022 年度に経済産業省補助事業として行ったスリランカ人材育成事業を、来年度以降自主事業として運営。
外国人材育成コンテンツの整備、および提供
会員企業の人材不足支援として研修後の外国人材とのマッチングおよび採用支援

3. 1 年目の目標

会員企業の外国人技術者の採用ニーズ調査
外国人採用実績企業へのヒアリング

外国人採用事業トライアル運用(6社参加)

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

事業推進のための、相談・報告・運営会議
各事業の進捗はデータ共有し、会議の場で運営の相談をする。
隔月開催を予定(必要に応じて随時開催)。

【事業No.2】英語による組込み人材研修(ロボコン)

組込み業界に必要な人材育成(外国人)
補助事業で開発した外国人材育成のeラーニングコンテンツ(英語)の運用
外国人材の受講者情報、受講履歴、受講成績の管理運営

【事業No.3】外国人材受け入れ企業自社紹介支援

外国人材受け入れ企業の外国人向け会社紹介コンテンツ作成支援
○自社紹介用の英語による動画コンテンツ作成支援

【事業No.4】外国人日本語研修支援

組込み業界に就職希望の外国人材へ日本語教育を実施する
○日本語検定N2以上を目指す
○業務に支障が無いレベルまで日本語研修を行う

【事業No.5】研修終了した外国人材と受け入れ企業マッチング

日本企業への就職を希望する外国人材と受け入れ希望企業とのマッチング
○外国人の評価
○受け入れ企業の要望ヒアリング
○マッチングイベント実施(全体、個別)

ET 技術者教育委員会

1. 活動概要(2023年度の事業方針)

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

【事業No.2】ET ロボコン

複雑化する組込み開発の人材育成を目的としたコンテストの企画および運営全般
全国地区大会及びチャンピオンシップ大会における競技会と付随する技術教育・モデリングワーク
ショップなどの実施・運営

JASA イノベーションチャレンジ実行委員会

1. 活動概要(2023年度の事業方針)

企画や内容については非常に高評価をいただいているイノベーションチャレンジであるが、2022年度も参加
チーム数に伸び悩み、2,500,000円ほどの赤字を計上するに至っている。

2023年度は、評価してもらっている点を中心にイベントの内容を見直すことに加え、参加チーム数の増加と、運営費用の削減を図ることにより、継続的なイベントの実施と赤字運営からの脱却を目指す。

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

参加チーム数：28 チーム（2022年度は21 チーム）

スポンサー企業：6 社（2022年度は6 社）

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

期初めの目標、実施項目の確認

各委員会の実施項目、施策、連携に関する情報交換

年2回実施予定 近畿で実施予定

【事業No.2】デジタル人材 イノベーションチャレンジ

DX 推進に貢献できるビジネス指向人材の育成を目的としたコンテストの企画および運営全般(旧 DX イノベーションチャレンジ)

書類審査、一次審査、決勝大会等における審査会の開催と付随するセミナー・相談会・チームビルディングワークショップなどの実施・運営(決勝大会を除き、すべてデジタル開催とする)

技術本部

1. 活動概要(2023年度の事業方針)

会議(委員会、WG会議)、成果発表会、技術本部セミナー(EdgeTech+ West2023)、技術本部セミナー(EdgeTech+ 2023)、技術本部・各委員会の成果を発表する

2. 達成目標(完了条件)

会議の実施、成果発表会の開催、EdgeTech+ West での技術本部セミナーの実施、EdgeTech+ 2023 での技術本部セミナーの実施、EdgeTech+ 2023 での技術本部・各委員会の成果の展示を実施する

3. 1年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

技術本部の活動を総括するため、本部会議を実施する。

四半期毎に1回

【事業No.2】技術本部成果発表会

各委員会の前年度の活動成果を、会員や一般向けに発表する。

今年度はリアルにて実施

【事業No.3】技術本部セミナー(EdgeTech+ West2023)

EdgeTech+ West2023 開催の機会を利用して、技術本部各委員会の中間成果を中心にセミナーを実施する

【事業No.4】技術本部セミナー(EdgeTech+2023)

EdgeTech+ 2023JASA 技術本部セミナーを開催。

技術本部・各委員会の成果を発表する。

【事業No.5】技術本部・各委員会の成果を発表する

EdgeTech+ 2023JASA ブースにおいて、PR 活動を行う。

主に JASA 会員に対する AI 技術振興を行う。

スタートアップの先端技術の情報を JASA 会員で共有できるように支援する

安全性向上委員会

1. 活動概要 (2023 年度の事業方針：事業予算案)

- (1) AI や IoT (含むセキュリティ) に代表される複雑システムの機能安全の課題や国際規格に関する調査・研究を行う。
成果は積極的に情報発信していく。
- (2) STAMP モデルをコア技術とした安全設計や事故分析の事例を蓄積し、技術者の啓発活動に役立てる。
- (3) 安全設計にかかわる仕様書において、その論理性や非機能要件の明示化にかかわる問題点を整理して改善のための議論をする。
- (4) 上記で得た知見を整理し、セミナーなどでの啓発活動を行う。加えて、有識者に指導をいただき、さらに知見を高める。そのためにも、大学、研究機構、IPA など外部組織・団体との技術交流、連携を積極的に推進する。
- (5) 「つながる社会での機能安全」、「安全仕様化」、「啓発・連携」の3つを委員会内 WG として設置する。

2. 達成目標 (完了条件)

- (1) 定例会にて各WGの活動を行う。
- (2) JASA 内での他の委員会(特にセキュリティ委員会)との合同での合宿を行い、Safety&Security の考え方をまとめる。
- (3) STAMP-WS への投稿。
- (4) 安全設計セミナーの開催。
- (5) 上記を通じ、委員各位の知見を深めるとともに JASA 会員企業へ複雑システムの安全設計に関する考え方の普及啓発を行う。

3. 1 年目の目標

- (1) 新設の「つながる社会での機能安全」の概要を明らかにする。
- (2) STAMP-WS の運営に協力(継続)
- (3) 都産技研との連携、技術セミナーの共同開催(継続)
- (4) 安全設計入門改訂版の内容を中心にJASAセミナー開催
- (5) 有識者、関連団体との連携協力の推進
- (6) 上記を通じ、委員各位の知見を深めるとともに JASA 会員企業へ「安全性」の普及啓発を推進する

4. 各事業計画 (案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

年度計画の策定、推進、状況確認。対外組織との連携を企画する。

- ・定例会(月一回)を開催し、各WGの活動報告から情報共有、意見交換を行い、「安全性」に関する見識や技術力の向上を図る。
- ・国内外の機関の技術動向ウォッチ、相互紹介を進めビジネス機会の提供を図る。
- ・STAMP/STPA/CAST に関わる情報収集を行う。
- ・セキュリティ委員会との連携によるセキュリティと安全性の融合に関わる情報収集を行う。
- ・会合は原則、委員会と一体で進めるが、議案は各WGで独立に行う。

【事業No.2】「つながる社会での機能安全」WG

つながる社会での機能安全の課題検討、特に AI・IoT(含むセキュリティ)がかかわる複雑システムの安全にかかわる課題を検討する。

- ・AI/IoTエッジの安全について理解を深める。

- Safety & Security(S&S)の考え方をまとめ、外部に発信する。
- STAMP/STPA/CAST にかかわる事例を集め、つながる社会での機能安全に役立つ考え方としてまとめる
- 合宿の企画、セキュリティ委員会などとの合同合宿の交渉(10 月前後)

【事業No.3】安全仕様化WG

安全性に関わる設計の課題検討、特に上流工程の課題を検討する。

- Safety & Security(S&S)の考え方をまとめ、外部に発信する。
- 安全に関わる要求を仕様化するプロセスを研究し、プロセスモデル又は手法を提案する。啓発・学術活動として、セミナー講師の派遣、学会や技術誌への投稿を行う。
- 安全誘導型設計プロセスモデルを重点課題とし、自主的に活動し、相互啓発を図る。
- 手法として、意図・要求記述手法や、形式検証手法、安全解析手法に取組む。
- AI/IoTエッジの安全について理解を深める。
- STAMP/STPA/CAST にかかわる事例を集め、つながる社会での機能安全に役立つ考え方としてまとめる

【事業No.4】啓発・連携 WG

委員会活動の成果を発信し、社会啓発に資する。

- 機能安全を中心に安全技術／文化に関する調査活動を行う。
- 外部との交流の中からオープンイノベーションの機会を増やしていく。

【事業No.4】安全設計セミナーWG

委員会活動の成果を発信し、安全技術の普及を行う。

- 安全設計セミナーの開催(JASA 内、企業出張)
- STAMP／STPAを中心に行う。
- 聴講者との交流も深める。
- 開催要領作成、開催支援は委員会と一体で進める。

組込みシステムセキュリティ委員会

1. 活動概要(2023 年度の事業方針：事業予算案)

- JASA 版「組込みセキュリティ教材」のコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)
- サイバーセキュリティ国際規格の動向調査、セミナーコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)
- IoT セキュリティの国際安全基準適合の認証取得、対応証明事業の立ち上げ
- 外部組織との情報交換、セミナー活動
- WG 活動、JASA 内の WG、委員会との連携活動

2. 達成目標(完了条件)

1. JASA 版「組込みセキュリティ教材」のコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)
IPA「IoT セキュリティ」教材」を基にした、JASA 版「組込みセキュリティ教材」のコンテンツ開発を行い、有償セミナーとして、動画配信を行い、収益に繋げる。開発したコンテンツを ETEC 試験制度の事業に展開し、セキュリティ認定制度の立ち上げを実施する。
2. サイバーセキュリティ国際規格の動向調査、セミナーコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)
サイバーセキュリティの国際規格として、EU の EN303 645 規格、米国の NISTIR8259 など、コンシューマ用途の IoT 機器向けの規格調査を行い、セミナー用の動画コンテンツを開発し、コンテンツの配信を行い、収益に繋げる。
3. IoT セキュリティの国際安全基準適合の認証取得、対応証明事業の立ち上げ
IoT 機器、組込み開発分野で利用される国際規格の調査を実施し、組込み開発会社にて認定を取る場合の支援のコンサルティング業務の導入として、会員企業とのマッチングを実施し、収益に繋げる。

4. 外部組織との情報交換、セミナー活動

セキュリティ啓発活動として、都立産業技術センターとの共同セミナー(有償)を開催し、中小企業向けのセキュリティ啓発活動を実施する。

その他団体との連携は、随時実施する。

5. WG 活動、JASA 内の WG、委員会との連携活動

組込みシステムセキュリティ委員会としては、WG 活動を月1回開催する。JASA 内の WG との連携も行い、セキュリティ面でのフォローを実施する。

3. 1 年目の目標

- ・JASA のセキュリティ教育事業の準備として、セキュリティ版 ETSS の開発、JASA 版「組込み技術者向けセキュリティ教材」のコンテンツ開発を実施できたものから、随時コンテンツの配信(有償化)を実施する。
- ・認定支援ビジネスとして、コンサルティングビジネスの導入として、会員企業とのマッチングを行い、支援ビジネスに繋げる。
- ・人材育成事業部との連携を図り、セキュリティの ETEC 制度の立ち上げに関する検討を実施する。
- ・サイバーセキュリティ国際規格の動向調査として、EN303 645、NISTIR8259 を調査し、コンシューマ向けの IoT 機器向けのセミナーコンテンツを開発し、動画コンテンツの配信を実施する。
- ・一般消費者、組込み開発者向けに他団体と協力し、セミナーを開催しながらセキュリティ啓発活動を行い、セキュリティに対する意識向上を図る。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】JASA 版「組込みセキュリティ教材」のコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)

JASA としてのセキュリティ教育ビジネスの開発と有償セミナー開催による収益化

JASA 版「組込み技術者向けのセキュリティ教材」の開発と ETEC 試験制度の立ち上げによる収益化

【事業No.2】サイバーセキュリティ国際規格の動向調査、セミナーコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)

サイバーセキュリティ国際規格のコンテンツ開発と有償セミナーによる収益化

EN303 645、NISTIR8259 の規格説明コンテンツの動画配信による収益化

【事業No.3】IoT セキュリティの国際安全基準適合の認証取得、対応証明事業の立ち上げ

セキュリティ国際規格の認定支援による収益化

組込み開発におけるセキュリティ国際規格の認定が必要な企業向けのコンサルティングビジネスの立ち上げによる収益化

【事業No.4】外部組織との情報交換、セミナー活動

都産技研など、外部団体でのセキュリティ啓発用のセミナー

セキュリティ啓発活動として、有償セミナーを実施する。

【事業No.5】WG 活動、JASA 内の WG、委員会との連携活動

委員会活動のため

毎月 第二木曜日、通年 12 回実施

IoT 技術高度化委員会

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

クラウドや IT 産業の視点で語られがちな IoT や M2M を、エッジ側(組込み産業、製造業)の観点で見直し、その構成/サービス/拡張性/検証性/保守性などの検討を行い、情報発信することを方針として 6 年活動してきたが IoT の活動から、一歩進めてデジタルツインをベースとしたメタバースに展開していく。

委員会名称の変更、委員長の交代を実施し、新たな活動へ昇華させる。

そのため、有識者を招いた勉強会や企業のサービス事例を題材にした「白熱教室」を定期開催し、見識を深める。

各 WG の活動は従来通り継続するが、デジタルツイン環境への入力トリガーとして委員会と連携する。

ドローン WG ⇒ ドローンを利用したサービスの検討、ビジネスモデルの提案など

スマートライフ WG ⇒ 現状、エモーションフラワーやハッピーミラー等エモーションをトリガーにした QOL 向上の活動が中心のため、改めて、WG 名をエモーション WG に変更するとともに主査の交代を実施する。

エネルギーハーベスティング WG は休会していたが、活動の再開が見込めないため廃会とする。

2020 年度から 2022 年度のコロナ禍での WEB ベースでの活動経験を踏まえて、リモートでの活動が可能となった。

これにより、大阪のみならず名古屋、福岡などの展示会を活用し、活動紹介を通じて、メンバーや連携団体を広く全国に求める活動を展開する。

2. 達成目標(完了条件)

本委員会は、ビジネスマッチング・共創の場の提供を基本とし、活動内容を広く周知し、会員企業はもとより業界団体の相互連携から、「共創によるビジネスの実現を図ること」を達成目標とする。

3. 1 年目の目標

情報発信活動の継続

(1)JASA HP での活動内容の掲示

(2) EdgeTech 展示会やセミナーでのデモ展示、講演、パネルディスカッションなど

(3) WorkShop の開催など

(4)その他

共創プロジェクトの実現:1 件

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG 会議)

活動計画、進捗状況の確認

・年 6 回程度の開催

・有識者を招いた講演&勉強会

・各種 IOT 団体との連携

【事業No.2】EdgeTech+WEST2023

委員会及び WG の活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。

・ブース展示:IoT 技術高度化委員会の紹介、パネル作成、資料配布など

・IoT セミナー、パネルディスカッションの企画・実施

【事業No.3】EdgeTech+2023

委員会及び WG の活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。

・ブース展示:IoT 技術高度化委員会の紹介、パネル作成、資料配布など

・IoT セミナー、パネルディスカッションの企画・実施

【事業No.4】IoT ビジネス検討ワークショップ

JASA 会員企業の若手に IoT ビジネスにふれて頂き、今後のビジネス展開の糧にして頂く。

・一昨年度実施した、「AI Work Shop」の続編の企画

・スマートライフ WG のデモシステムをベースにした Workshop など

【事業No.5】福岡展示会

委員会及び WG の活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。

・ブース展示:IoT 技術高度化委員会の紹介、パネル作成、資料配布など

・IoT セミナー、パネルディスカッションの企画・実施

【事業No.6】名古屋展示会

委員会及びWGの活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。
・ブース展示:IoT 技術高度化委員会の紹介、パネル作成、資料配布など
・IoT セミナー、パネルディスカッションの企画・実施

ドローン WG

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

- (1) ドローンWGとしての実績まとめ
- (2) 金沢工業大学との連携研究
- (3) NEDO PJ への貢献のための活動
- (4) WG 活動

2. 達成目標(完了条件)

1. ドローンWGとしての実績まとめ
2023 年までに活動してきた内容をまとめて、会員企業、他団体などに活用してもらい、産業ドローンの活用に繋げる。
2. 金沢工業大学との連携研究による機体製造
V TOL の機体に関しての連携研究を行い、機体の作成マニュアルを開発し、会員企業に活用して頂く。
3. NEDO PJ への貢献のための活動
NEDO PJ の参画を行い、ドローンWGとしての実績を紹介し、PJ に貢献する。
4. WG 活動
不定期となるが、年数回実施する。

3. 1 年目の目標

金沢工業大学との連携研究を通じて、ドローンWGの実績をまとめて、機体開発マニュアルなど会員企業に利用してもらおう活動を実施する。
ドローンWGの実績を活用して、他団体との連携を行い、産業ドローンの普及に繋げる。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】ドローンWGとしての実績まとめ

ドローンWG 活動内容の総括
会員企業、他団体に実績が活用し易くする。

【事業No.2】金沢工業大学との連携研究による機体製造

JASA 独自機体を製造し、製造方法を会員企業に寄与する。
金沢工業大学との連携研究を行い、機体製造のノウハウを習得しながら、JASA 会員企業向けの機体製造マニュアルなど、会員企業での利活用がし易いように推進する。

【事業No.3】立命館大学への貢献のための活動

立命館大学での活動
立命館大学に対して、JASA ドローンWGの実績を紹介し、立命館大学に貢献する。

【事業No.4】WG 活動

通年で数回実施する

スマートライフ WG

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

- 人の感情(エモーション)や状態(バイタル)をセンシングし、IoTとして応用する技術の調査・研究
現状、エモーションフラワーやハッピーミラー等エモーションをトリガーにした QOL 向上の活動が
中心のため、改めて、WG 名をエモーション WG に変更するとともに主査の交代を実施する。
- ifLink オープンコミュニティと連携し、IoT の普及を促進する。
- 検討したソリューションについて、プロトタイプを作成し、サービスの有用性について実証実験を行う。
- 展示会、WorkShop を通じ、スマートライフ WG の活動メンバーを増やす。
- RC88 (COMMA ハウス)、IoT-EX、トリリオン研、都産技研など様々な会社、団体と交流し、オープンイノベー
ションを推進していく。
- エモーションをメタバース上に反映(デジタルツイン)し、実現できるソリューションの検討。

2. 達成目標(完了条件)

プロトタイプ作成で得られた技術的な知見を成果としてまとめ情報展開を行う。(設計書、コード等)
展示会にて、セミナーを実施し、スマートライフ WG の活動成果を発表する。
様々な会社、団体(RC88(COMMA ハウス)、IoT-EX、ifLink オープンコミュニティ、トリリオン研、都産技
研)との協力、連携、交流をし、JASA のプレゼンスの向上を図る。
ソリューションのビジネス化に向けた検討を行う。
WorkShop を開催し、活動内容をアピールし、活動メンバーの募集を実施する。

3. 1 年目の目標

センサ(エモーションセンシング等)の継続調査、研究。
ifLink に対応したエモーションセンシングプロトタイプ作成。
WorkShop の実施。
新規ソリューションの検討。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

情報共有、メンバーとのディスカッション、プロトタイプ作成進捗報告
メンバーとのディスカッション、情報共有、プロトタイプの作成状況確認、デモ展示に向けた確
認等
スマートライフに利用できる新規センサ(特にエモーションキャッチセンサ)の調査・研究
実証実験で得られた技術的な知見のまとめ。(勉強会、セミナー実施)

【事業No.2】プロトタイプ作成

スマートライフ WG で検討したアイデアの展示会に向けたプロトタイプ作成
スマートライフ WG で検討したアイデア実現のためのセンサー調査、プロトタイプ作成。
ifLink オープンコミュニティとの連携で、ifLink 対応のセンサー、アクチュエーターを動作させる。

【事業No.3】EdgeTech+WEST2023

スマートライフ WG の活動を外部に向け発信し、様々な会社、団体と交流し、仲間作り、人脈を形
成する。
スマートライフ WG の活動内容を、パネル、動画展示を行い、セミナー発表を行う。

【事業No.4】EdgeTech+2023

スマートライフ WG の活動を外部に向け発信し、様々な会社、団体と交流し、仲間作り、人脈を
形成する。
スマートライフ WG の活動内容を、パネル、動画展示を行い、セミナー発表を行う。

【事業No.5】ワークショップ

エモーションフラワー、ハッピーミラーなどのプロトタイプを、ワークショップを通じて作成する。

応用技術調査委員会

OSS 活用 WG

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

OSSC 共同セミナー、WG 会議、RISC-V エコシステム調査、組込み OSS 鳥瞰図作成、OSS 普及セミナー、OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査、広報資料作成、外部発表

2. 達成目標(完了条件)

OSSC 共同セミナーの開催。
RISC-V エコシステム調査報告書の作成。
組込み OSS 鳥瞰図の作成完了。(着手から 3 年後を目指す)
OSS 普及セミナーの開催、ハンズオン実施。
OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査報告書の作成。
広報の資料作成。
外部発表の実施。
WG 会議の開催。

3. 1 年目の目標

LSI 開発 OSS 調査を行う
ハンズオン開催は適宜行い、OSS 技術振興と会員の技術向上に貢献する
セミナー開催は適宜行い、技術振興と JASA の認知度向上に貢献する

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG 会議)

WG 活動のため
・隔月、年 6 回(都内、関西など)の開催

【事業No.2】LSI 開発 OSS 調査

LSI 開発用 OSS の利用を促進するため、OSS の一覧表をまとめ、それらの使用方法を調査する
LSI 開発用 OSS を使用して、中小企業でも完全オリジナル LSI の開発が可能になりつつある。それに関わる OSS の情報と使用方法をまとめる

【事業No.3】外部発表

WG の活動果を公表し、活動をアピールする
1. 技術本部成果発表会(5 月) JASA 会員向け報告
2. EdgeTech+2023 技術本部セミナー(11 月) 一般向け啓発

【事業No.4】OSSC 共同セミナー

OSS の活用を促すセミナーを実施する。同時に WG の活動を外部にアピールする。
OSS コンソーシアム AIR 部会と共同で、開催。外部より講師を招き、最新の OSS 情報を、一般に知らしめるセミナーを主催し、WG の活動をアピールする。
時期は通年で、年に 3 回程度実施。

【事業No.5】広報資料作成

WG の活動成果を公表し、WG の活動をアピールする。
フライヤ(チラシ)、ステッカ、印刷物などを作成

【事業No.6】RISC-V エコシステム調査

オープン・ソースな CPU RISC-V を取り巻く環境を調査する
RISC-V CPU を搭載したボードをもとに、CPU アーキテクチャ、開発環境を調査する。RISC-V のために活動している有識者、団体などと交流をはかり、RISC-V エコシステムの中での組込み団体の立ち位置を探る。開発環境 OSS、OSS な組込み用ブートローダなどの調査を行う

【事業No.7】OSS 普及セミナー

JASA 会員などへの OSS とオープン・ソース・ハードウェアの振興を諮る
座学とハンズオンを混合した形式で、組込み技術が身につくセミナーを実施。
本年度は、近畿地方で数回程度の連続実施を計画。

【事業No.8】OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査

OSS ドローンを飛行させるための、諸事情を調査する
ドローンは飛行させるために、飛行場所、操縦のための資格などが必要である。
また、OSS を使用したドローンを今後運用するために、必要となりそうな事柄を調査する

アジャイル研究 WG

1. 活動概要 (2023 年度の事業方針)

WG 会員の課題解決による技術及びマネジメント情報の共有と研究成果の情報発信
委員の知見を深めるためのセミナーを開催する。

2. 達成目標 (完了条件)

ET 展や技術本部成果発表会等での研究発表
委員の知見を深め、各社の業務に研究成果を反映頂く

3. 1 年目の目標

参加会員の課題や諸問題をアジャイル開発等の手法を活用し、解決し、その成果事例を ET 展で発表する。
外部講師による講演会や情報交換の場を会員に提供する。
参加会員の増強

4. 各事業計画 (案)

【事業No.1】会議(委員会、WG 会議)

開発の課題をアジャイルなどの手法を導入して改善する研究会
2012 年度より始まったアジャイル研究会を続けて行う。
開発の課題解決にアジャイルなどの手法を適用して試行し、評価する。

【事業No.2】アジャイル勉強会(セミナー開催)

外部講師をお招きし、より広い知見を得る
上記 WG に合わせ、年に 2 回は外部講師をお招きし、セミナーを開催する。

AI 研究 WG

1. 活動概要 (2023 年度の事業方針)

研究定例会議(年 6 回程度)
勉強会(全 5 回(講義:4 回、発表:1 回))

2. 達成目標 (完了条件)

(1) エッジ AI が一般化するまで機械学習の最新技術の取り込みとコンペ参加で技術力を向上させ、エッジ機器への AI 実装を試す

(2) Deep Learning を使用したデモ開発と参加企業上長向けの内部デモ発表

3. 1 年目の目標

- 1) 興味のあるテーマを Why to make で繋がったグループで取り組み、結果を展示会などで発表
- 2) AI に興味のある技術者を対象に Deep Learning とは何かを理解し、製品に組み込む技術者の育成。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

Deep Learning を既に理解し開発できる技術者とエッジ AI 活用研究
毎月、1 回 1 時間のオンライン WG を行なう。

【事業No.2】技術者育成

AI に興味のある技術者を対象に Deep Learning とは何かを理解し、製品に組み込む技術者の育成
年 5 回(ほぼ隔月)、1 回 3 時間のオンライン勉強会を行なう。

プラットフォーム構築委員会

Open EL 活用 WG

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

- OpenEL の仕様の強化
- OpenEL の普及・啓発を強化する
- OpenEL の国際標準化の可能性を調査する

OpenEL を国際標準とするためには、優れた仕様だけでは不十分であり、多くのユーザーに使っていただく必要がある。そのためには、多くのユーザーが使用しているプラットフォームに対応するのが得策である。よって、ET ロボコンのプラットフォームとして採用されている LEGO 社の EV3 などへの対応を行う。

また、ET ロボコンに限らず、高度化する組み込みシステム開発において品質と効率を上げるモデルベース開発が求められており、上流から下流まで一貫通して開発できることが重要である。そして、これを実現するためにも各レイヤーのツールベンダーを巻き込む必要がある。そして、各ツールで OpenEL をサポートすることにより、インターフェースが統一されるため、モデルからソースコードを自動生成し、さらに自動テストまで行うことが可能になる。ゆえに、OpenEL が組み込みシステム開発において上流から下流まで一貫通したソリューションを提供する核となる。

さらに、組み込みシステムセキュリティ委員会と連携し、セキュリティ対応を目的として仕様を強化する。

2. 達成目標(完了条件)

- OpenEL の仕様の強化
- OpenEL の国内外における普及
- OpenEL の国際標準への提案

3. 1 年目の目標

- OpenEL の仕様の強化
- OpenEL の国内外における普及
- OpenEL の国際標準化の可能性の調査
- OpenEL の国内外における普及のため、OpenEL 対応プラットフォームとデバイスを強化する。
- 仮想シミュレーション環境「箱庭」との連携を強化し、PC→シミュレーターの片方向だけではなく、シミュレーター→実機
- の双方向接続を実現する。さらに、Azure IoT をはじめとするクラウド上のサービスとシミュレーターの接続を目指す。

各レイヤーのツールベンダーを巻き込み、OpenEL エコシステムを構築する。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

OpenEL の仕様策定、普及・啓発およびその他の活動計画の立案、国際標準化の可能性の検討

組み込みソフトウェア開発技術の調査、アクチュエーターやセンサーに関する技術の調査、講師を招いての勉強会の開催、OpenEL 仕様書の執筆、実装などの具体的な作業を行う

【事業No.2】EdgeTech+ West

OpenEL の普及・啓発活動

EdgeTech+ West 2023 にて、OpenEL を用いた組み込みソフトウェア開発手法の講演およびデモ展示を行う。

【事業No.3】EdgeTech+ 2023

OpenEL の普及・啓発活動

EdgeTech+ 2023 にて、OpenEL を用いた組み込みソフトウェア開発手法の講演およびデモ展示を行う。

組み込み IoT モデリング WG

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

本 WG では、IoT 時代に必要とされる手法やモデルを明らかにし、その活用を促すとともに共有資産の創出を目指す。

進め方としては、大まかな方向性や見解を議論する WG と、それを使って実際にモデルを作成し有効性を検証し、WG にフィードバックするサブ WG の 2 つの活動を並行して行っていく。

2. 達成目標(完了条件)

IoT 時代に有効なモデルの活用方法に関する知見をガイドラインの形でまとめることが出来た時点で、完了とする。

3. 1 年目の目標

SoS(System of Systems)での課題となるセキュリティに対し、事前にモデリングを試みることで、問題となりそうな箇所を事前に検討出来る手法を考える

その手法に関する紹介や適用時のガイドラインをまとめ、外部に公開する。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

サブ WG の開催に関する運營業務の委託。具体的には、次の作業(連絡用 ML の管理、会合開催の連絡、当日の出席・進行補佐、議事録の作成、成果物の管理等)。

組み込み DevOps プラットフォーム WG

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

ステアリング会議

2. 達成目標(完了条件)

昨今、組み込み業界の顧客層が大きく変化している。顧客と対話するためのツールが求められている。

組み込み開発の開発手法も大きく変わりつつあり、既存ソフトウェアの活用が大変重要となっている。

組み込み DevOps プラットフォームは、既存ソフトウェア、既存ハードウェア部品などを活用できる情報を開

発企業に提供する。

DevOpsPF は、既存ソフトウェア、既存ハードウェアの情報を活用して、新しい層の顧客と対話するためのツールにもなる。

DevOpsPF の理想形、要件定義を行うことが、本 WG の目標である。

達成目標は、以下

- ・組み込み DevOps プラットフォームの理想形の定義
- ・組み込み DevOps プラットフォームの要件の定義

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

DevOpsPF の理想形と要件定義を行う
理想形と要件定義を行うための、会議を行う

【事業No.2】プラットフォーム構築

DevOpsPF の構築を行う。
大学生に業務委託して DevOpsPF の構築を進める。

ハードウェア委員会

デバイス WG

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

- (1) 新規参入の FPGA ベンダー (Effinix など) の評価ボードを利用して性能比較ならびに RISC-V の実装方法を確立する
- (2) RISC-V 以外の新技術の習得

2. 達成目標(完了条件)

FPGA ボード導入手順書の作成
RISC-V の導入手順書の作成
周辺回路の製作と RISC-V による動作検証実施
新技術を 2 件/年の発掘

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

WG 活動内容の報告、および技術セミナーなど
月 1 回の WG 開催
技術セミナー 2 回/年

【事業No.2】新 FPGA ボードの性能評価、ならびに FPGA 周辺回路の製作

RISC-V の普及活動のため
RISC-V を搭載可能な FPGA ボードを利用して周辺回路と組合せて、実装方法、RISC-V の利用方法などをメンバーへ展開する

RISC-V WG

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

【背景】

- RISC-V はハード、ソフトともにオープンソースかつロイヤリティフリーであり、加えて組み込み機器では今後ますます重要性を増す認証やデータの安全性を担保するセキュリティ機能についても技術開発が進んでいることから、JASA として押さえておくべき重要技術の 1 つである。
- 一方、実装にはノウハウが必要で、使いこなせるようになるにはノウハウの積み重ねが必要となる。
- 上記を会員各社が個別に行くと、ノウハウ取得まで 3M のリソース投資が各社個別に必要となり、無駄かつ複数通りの実装が生じるために会員相互の連携も非効率なものになる懸念がある。
- このため、20～22 年度に会員が自由に利用できる JASA 版入門用 RISC-V プラットフォームを開発した。

【方針】

- (1) オープンな仕様で、会員が自由に活用できる RISC-V プラットフォームを会員の協力で開発する。
 - (2) コミュニティ化など、開発した RISC-V プラットフォームの普及活動を行い、応用範囲を広げる。
 - (3) 上記活動を通して RISC-V コミュニティに貢献するとともに JASA のプレゼンス向上を図る。
- 今年度はこれまで開発してきたプラットフォームおよび周辺環境を整備し、JASA 内外での活用を図る。

2. 達成目標(完了条件)

- (1) 毎月定例会を開催し、会員または招聘者による講演、開発の進捗報告等で会員の RISC-V 理解を深める
 - ◇ 会員の RISC-V に関する発表の場を提供すると共に、会員相互のスキルアップを支援する
 - ◇ 会員参加に向けた RISC-V 著名人や有識者による Web 講演会を実施する
 - ◇ 成果の発表機会を作る (ET 展への出展や他 WG のプロジェクトへの部品としての提供など)
- (2) より実用的な RISC-V プラットフォームを実現する
 - ◇ これまで開発してきたプラットフォーム、及びドキュメント等の普及促進ツールを整備して活用促進を図る
 - ◇ セキュリティ機能実装検討による IoT 組み込み機器向けデバイス認証・セキュリティ環境の構想をまとめる
- (3) RISC-V 協会、その他の外部 RISC-V 関連団体との連携活動を行う(1 つ以上の連携活動の実施)
 - ◇ 展示会で RISC-V 協会とジョイントで RISC-V コーナーを立ち上げ、展示を盛り上げる

3. 1 年目の目標

◆ 実用的な RISC-V 組み込み IoT プラットフォーム化実現

- 組み込み RISC-V をシステム内の中核部品として位置付けた IoT プラットフォームの実現
- 外部団体・出版社との協創によるプラットフォーム普及活動の推進
- セキュリティ機能実装検討による IoT 組み込み機器向けデバイス認証・セキュリティ環境の構想まとめ
- ET&IoT WEST, EdgeTech+等展示会への出展 (特に RISC-V 協会との協創を図る)

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

- 委員間での会合
- 毎月定例会を開催する
- 会員もしくは外部の RISC-V 有識者による勉強会を実施する

【事業No.2】RISC-V プラットフォーム整備

- ・JASA 版 RISC-V プラットフォームの開発
- ・他の委員会, WG 等で活用するための周辺環境の整備
 - (1) FPGA ボードの購入(プラットフォーム貸し出し用×5 式)
 - (2) 開発プラットフォーム利活用ドキュメントの整備
 - (3) 既開発プラットフォームのメンテナンス(ソフトウェアバージョンアップ対応)

【事業No.3】外部団体との協創活動

- ・RISC-V 協会、その他の外部 RISC-V 関連団体との連携活動を行う
- ・WG の活動を RISC-V コミュニティで認知されたものにする
- ・JASA 会員が個別に外部団体に加入しなくても参加できるようにする
- ・特に RISC-V 協会と展示会で協創する

【事業No.4】広報活動

- ・JASA の RISC-V に対する活動を広報する
- ・会員の RISC-V 理解を深める
- 【(メンバー・会員対象)Web セミナー開催】
- ・定例会(メンバー会議)のタイミングで年 6 回程度開催する
- ・会員または招聘者による講演、開発の進捗報告等で会員の RISC-V 理解を深める
- 【展示会出展】
- ・ET WEST 2023, EdgeTech+ 2023 への出展

ET 事業本部

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

JASA の基盤事業として、成長性のある収益事業として発展させる

コロナ禍により、JASA の収益の柱である展示会事業がさまざまな課題に直面している。
以前のような、JASA の強固な収益事業とすべく、新たな展示会としての姿を目指す。

①応用分野の取込み

応用分野を持つ他の展示会や団体との共同開催を図ることで、展示会の規模・内容を強化

②若手来場者の取込み

新たな経済・社会活動を担う若手エンジニアを呼び込むべく、企画・運営体制を刷新

③業界団体ならではのコンテンツ提供

コミュニティの HUB、産業界や社会課題への提案など、業界団体主催ならではの新たな価値を提供

④魅力あるオンライン展示会の実現

with コロナを見据えた、実効力あるオンライン展示の実現とリアル展示との融合化

⑤営業力と出展社支援の強化

大小間向け営業施策の強化と、小間向けの出展支援で、出展社数の大幅増を実現

2. 達成目標(完了条件)

2023 年度と 2024 年度の具体的な数値として以下を設定する(ナノオプトメディアとも共有済)。

2023 年度売上(257,275,000 円)

・EdgeTech+(217,200,000 円)

・EdgeTech+WEST(40,075,000 円)

⇒ JASA 業務提携費(85,000,000 円)

2024 年度売上(304,451,350 円)

・EdgeTech+(259,826,350 円)

・EdgeTech+WEST(44,625,000 円)

⇒ JASA 業務提携費(100,000,000 円)

3. 1 年目の目標

- ① 応用分野の取込み : 共同開催(2 件)
- ② 若手来場者の取込み : 若手主体企画(2 件)、運営側平均年齢(-5 歳)、来場者平均年齢(-3 歳)
- ③ 業界団体ならではのコンテンツ提供:
コミュニティ連携企画(2 件)、JASA 発信コンテンツ強化(技術委員会との連携)
- ④ 魅力あるオンライン展示会の実現:オンライン展示の顧客満足度(4 以上)
- ⑤ 営業力強化と出展社支援の導入:復活した大小間数(5 件)、新規の小小間数(10 件)

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

事業本部の運営全般

本部会、推進委員会、各 WG(展示会 WG、カンファレンス WG)の開催

【事業No.2】EdgeTech+ West@大阪

EdgeTech+ West 2023 展示会実施に伴う運営委託費等

【事業No.3】EdgeTech+ @横浜

EdgeTech+ 2023 展示会実施に伴う運営委託費、事業収入等

プラグフェスト実行委員会

1. 活動概要(2023 年度の事業方針)

Society 5.0 は、IoT で全ての人とモノが繋がり、情報共有が必要となるが、現在家電業界に於いて世界的に普及している HDMI も根本的な思想は同様で、同一のインターフェースで全ての機器が等しく繋がり、双方向で情報共有を行っている唯一の規格である。

日本プラグフェストは、この HDMI の相互接続検証を日本で実施することを基本とし、国内外の家電メーカーに対し接続検証の場を設け、技術的な課題の共有や品質の向上に努めている。

日本プラグフェストで培われた経験を活かし、Society 5.0 の実現に向け IoT で全ての人とモノが繋がるには何をすべきかを、JASA 会員企業の視点とは別の視点から考察することで課題を克服し易くし、新しい価値の創造を行えるようフィードバックを実施する。

また、日本プラグフェストで使用しているプラットフォームを流用し、Society 5.0 の実現に向けた実証実験や相互検証の場を提供することも検討する。

日本プラグフェスト参加の企業に対しては、JASA 会員企業の認知度の向上及び ET 展への周知や情報提供を行うことで、そのプレゼンスを上げていくことも目的とする。

2. 達成目標(完了条件)

年に 2 回、東京と近畿圏で定期的開催することで、参加の可能性のある家電メーカーに対して信頼や安心感を獲得するとともに、参加者と技術動向の把握、定期的な情報交換を実施することで技術の進化に追従し、より良い技術交流の機会を提供し続けることが目標。

3. 1 年目の目標

2018 年 12 月よりスタートした新 4K8K 衛星放送を皮切りに、次世代の技術(HDMI2.1)を搭載した 8K 対応機器の接続検証を実施する。

HDMI2.1 で新しく定められたゲーム業界でいち早く搭載されている、新機能・項目の接続検証の場として、日本プラグフェストは、国内のゲーム機器メーカーをはじめアジア各国のディスプレイメーカー(韓国)およびデバイスメーカー(台湾)に参加を促す。

技術的に最高峰かつ最新の接続テストが実施出来るのは、日本プラグフェストであることを PR する。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

実施計画策定のミーティングを実施

【事業No.2】日本プラグフェスト(春季)

HDMI 規格にて接続試験を実施
京都にて実施予定。

【事業No.3】日本プラグフェスト(秋季)

HDMI 規格にて接続試験を実施
都立産業技術研究センターにて開催予定

Ⅲ 支部事業計画

北海道支部

1. 活動概要(2023年度の事業方針：事業予算案)

支部会員を増やす

セミナー開催

ビジネス交流委員会と一緒に行う(予算は、ビジネス交流員会で計上)

支部会の開催

交流会(食事会&ゴルフ会)

セミナー開催

ビジネス交流委員会と一緒に行う(予算は、ビジネス交流員会で計上)

2. 達成目標(完了条件)

支部会員を5社増やす。

支部会を2ヶ月に一回行う。

3. 1年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】支部運営会議 支部会議

北海道支部の活性化及び会員増強の打合せ

HIS ホールディングス会議室にて、年度計画の打合せ及び懇親会を行う

【事業No.2】国内外視察調査

事業計画なし

【事業No.3】技術セミナー

ビジネス交流員会と技術セミナーを行う

予算はビジネス交流員会で計上

【事業No.4】その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】研究会

事業計画なし

【事業No.6】交流会

支部会員を増やす

支部会員を増やす為にJASAの活動を紹介するとともに交流を図る。

【事業No.7】ET/ETWEST/ETロボコン等 イベント参加

事業計画なし

東北支部

1. 活動概要(2023年度の事業方針：事業予算案)

●支部会員増を図る

・会員増のために、会社訪問等による直接勧誘を行う

・支部事務局のある、岩手県・盛岡市等とビジネス交流委員会との共同セミナー開催を契機に東北支部会員増と支部活動の活性化を図る

●支部会員へのサービス提供

- ・支部会、セミナー開催により会員企業の事業発展に寄与する
- ・EdgeTech 展期間内での交流会・勉強会の開催
(例：最新のデバイスメーカーの動向等を知る)
- ・EdgeTech 展へのサポート（地方パビリオンの推進）
(例) JASA 会員が共同研究先(大学等)と共に技術を広める場を提供したい

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

東北支部事業の推進
会員企業の増
東北支部事業の事業遂行状況確認
技術セミナーを同日開催

【事業No.2】 国内外視察調査

事業計画なし

【事業No.3】 技術セミナー

会員企業にとり最先端の技術動向の提供を行い事業発展に貢献
IoT、AI 等に関するセミナー開催
(岩手県、盛岡市等の自治体（及びビジネス交流委員会）等との共同開催を予定)
支部会議との同日開催

【事業No.4】 その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】 研究会

事業計画なし

【事業No.6】 交流会

支部の交流、他団体との連携による支部活動の活性化
JASA ビジョン 2030 を受け、ビジネス交流委員会と東北支部との共催により
セミナー・交流会を開催する

【事業No.7】 E T / E T W E S T / E T ロボコン等 イベント参加

事業計画なし

関東支部

1. 活動概要(2023年度の事業方針：事業予算案)

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発
- ②協会本部を有する支部としての役割の再構築

2. 達成目標(完了条件)

JASA 活動への” のべ参加率” 100%、共に新入会員 5 社を達成目標とする。

3. 1年目の目標

JASA 活動への” のべ参加率” 100%、共に新入会員 5 社を達成目標とする。

4. 各事業計画(案)

- 【事業No.1】 支部運営会議 支部会議
支部企画運営、および支部会議運営推進
支部企画運営 WG(原則月例)、および支部会議(例会)開催
- 【事業No.2】 国内外視察調査
新規ビジネス検討、会員間相互交流の創出
国内外企業、学術団体等を視察調査し、新規ビジネス検討/会員間相互交流を創出
- 【事業No.3】 技術セミナー
事業計画なし
- 【事業No.4】 その他セミナー
事業計画なし
- 【事業No.5】 研究会
事業計画なし
- 【事業No.6】 交流会
本部及び本部事業および支部との連携による、関東支部会員向け情報提供、および会員間相互交流の創出
本部の各種委員会および本部事業、また他支部と連携し、JASA 活動状況を積極的に関東支部会員に提供すると共に会員間相互交流を創出
- 【事業No.7】 E T / E T W E S T / E T ロボコン等 イベント参加
事業計画なし

中部支部

1. 活動概要(2023 年度の事業方針：事業予算案)

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発を行う。
- ②中部支部の特性を生かした事業を推進し、会員相互の親交の場を提供する。
- ③中部地域における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化を推進する。

2. 達成目標(完了条件)

会員増強 会員数 22 社
中部経産局との協業事業実施 ワークショップの実施
セミナーイベント参加人数の増加 前年比+20%
近隣大学との提携事業の実施 名古屋近隣大学とセミナー実施定例開催
ET 名古屋の開催

3. 1 年目の目標

会員増強 中部支店のある会員企業に参加の働き掛け
支部会議、例会の定期的な実施 コロナ禍においても
国内外視察の実施
近隣大学との連携 技術セミナー、マネジメントセミナーの複数回実施
会員企業社員が参加するセミナーやボウリング大会の実施
ET 名古屋の新しい形の模索

4. 各事業計画(案)

- 【事業No.1】 支部運営会議 支部会議
中部支部 2023 年度事業計画、事業予算、遂行計画の確認と会員企業の経営者・幹部社員の情報交流

支部運営会議を5月と12月に実施し、事業案及び予算案の周知と会員の要望の確認
定例会を4回程度実施し、実施事業の内容決定や実績確認を行う

【事業No.2】 国内外視察調査

国内外の情報産業の情報収集と地場大学・情報産業団体や企業との交流
海外視察は中堅幹部社員の海外経験の場としても提供
但し、コロナが収束すれば、の条件付き

- ・国内の他地域の情報産業事情と協業の可能性を調査するとともに地場情報産業団体や企業との交流をする。
- ・東南アジアを中心とする海外の情報産業の実情及び協業の可能性を調査するとともに交流などを介して中堅管理者の海外経験を積むこと10月頃開催のタイトロニクス目標

【事業No.3】 技術セミナー

- ・今後発展しそうな組込みシステム技術の普及・啓発を図る
- ・地元大学・企業から先進的な指導者を招聘して年2回セミナー・講演会を開催し組込みシステム技術の普及・啓発を図る
- ・セキュリティ関連のセミナーを継続的に実施

【事業No.4】 その他セミナー

新時代を迎えるにあたり、今後のビジネスモデル、組織論や管理技術などを議論する場を提供する

- ・地元大学の経営学や管理技術の先生の協力を得て、上記目的を達成する講演を開催する

【事業No.5】 研究会

会員各社幹部向け経営勉強会の実施

デジタルトランスフォーメーションが本格的に波及する中、中部地区の主産業である車分野もEV化や自動運転の推進など従来にはない方向を目指している。
会員各社の経営幹部を対象として時代に合ったビジネスモデルにどのように考えるか、後継者問題など各会社の経営課題を、ケーススタディを基に勉強する。

【事業No.6】 交流会

会員企業の社員が相互に交流を図る機会を作る

地域の大学や企業訪問・交流

- ・多数の会員企業の社員が相互に交流・親睦をはかれる唯一の機会であるボウリング大会を開催する。
- ・人材確保の一環として大学で会社説明などを支部として実施する。
- ・近隣企業との協業を視野に交流の機会に参加する。

【事業No.7】 E T / E T W E S T / E T ロボコン等 イベント参加

ET や ET 名古屋のイベントに参加する

- ・アジャイル研究会の成果をETの技術本部のセミナーや技術本部成果発表会で発表し、研究会の活動の評価を受ける
- ・ET名古屋の新しい開催方法を地元業界団体と協力して検討する
- ・人材不足の解決方法としての協業の情報を得るために協業委員会の地方開催イベントや国際委員会のイベントに参加する

北陸支部

1. 活動概要(2023年度の事業方針：事業予算案)

ともに支部活動に関わる会員、連携先を増やし、地域産業への貢献度向上を目指した活動展開。

- 1) 地域における産学官連携活動の推進。
- 2) 支部活動広報を兼ねた、人材育成・交流活動の推進。

2. 達成目標(完了条件)

- 1) 地域における産学官連携活動の推進。
e-messe KANAZAWA 出展
Matching Hub 出展
- 2) 本部および他地区と連携した技術力向上活動の推進
デジタル人材イノベーションチャレンジへの産学連携参加促進

3. 1年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議
事業計画なし

【事業No.2】 国内外視察調査
JASA 活動広報、施策調査ヒアリング
視察調査(ヒアリング)に加え、DX イノベーション・ET ロボコンの普及の
広報活動を兼ねる。

【事業No.3】 技術セミナー
組込み技術および周辺技術の普及
講師 2-3 名を招き、最新技術の紹介とともに、地元産学からの事例紹介を
実施し、ASA 活動の広報を兼ねる。

【事業No.4】 その他セミナー
JASA 活動広報、産学官連携推進
JAIST Matching HUB 2023/11 月 関係団体セミナー出展。

【事業No.5】 研究会
事業計画なし

【事業No.6】 交流会
JASA 活動広報、産学官連携推進
JAIST Matching HUB 2023/11 月 関係団体セミナー、交流会の実施。
ビジネス交流委員会の北陸地域交流セミナーを開催することで、
支部活動の活性化と会員勧誘を行う。

【事業No.7】 E T / E T W E S T / E T ロボコン等 イベント参加
JASA 活動広報、会員獲得活動、DX イノチャレ、ET ロボコン参加啓蒙活動
e-messe KANAZAWA へのブース出展。
JASA 会員獲得に向けた、DX イノベーションチャレンジへの参加啓蒙として
参加費補助。

近畿支部

1. 活動概要(2023年度の事業方針：事業予算案)

JASA ビジョン 2030 に則り、支部としてあるべき姿を求めていく
新型コロナウイルス感染症への対策は万全を期した上で可能な限りリアル開催を実施し会員間の交流を大事にする。
より有効な場面ではオンラインやオンデマンドでの事業も展開し時代に合った支部活動を推進していく。

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

支部事業計画に基づいた具体案の検討と本部・支部事業の連絡及び報告、官公庁・関連団体との情報共有。
4月には前年度活動報告及び決算報告、新年度の活動計画及び予算案を確認する。また官公庁との情報交換を行う。
6月はセミナーの活動報告、ET-Westの報告、経営者向けのセミナーを行う。
9月には近畿圏での本部活動報告と官公庁との情報交換、12月は国内視察報告、他団体連携状況報告及び次年度事業検討。
3月は次年度予算と事業計画について確認し、近畿圏での本部活動報告会を行う

【事業No.2】 国内外視察調査

国内外の組込みシステム技術の調査、現地の経済情勢を視察
今期、海外視察は取りやめとするが、国内視察として地方の組込みシステム技術と地方情勢に関する調査及び意見交換を行い、組込みシステム技術の普及啓発に寄与する。

【事業No.3】 技術セミナー

技術担当社員の情報収集、技術啓発
春季と秋季の2回、組込みシステム技術に関する先端の技術についてセミナーを実施し、技術担当社員の技術啓発や人材育成を行う。講師の支払報酬を負担し、企業の枠を超えた研修の場を提供する。

【事業No.4】 その他セミナー

総務・管理部門担当社員及び営業担当社員の人材育成
総務セミナーと営業セミナーのそれぞれについて春期と秋季の2回、各方面から講師を招聘し、総務・管理部門担当社員及び営業担当社員を対象とするセミナーを実施する。講師の支払報酬を負担し、組込みシステムに特化した会員企業では比較的貧弱な分野である技術以外の分野へのスキルアップ、情報収集に役立つ

【事業No.5】 研究会

事業計画なし

【事業No.6】 交流会

会員企業社員相互の親睦や他団体との交流を図る
4月には次世代の経営層を見据えた親睦会、7月には納涼会を実施する。
また12月には忘年会、1月には他団体と合同での賀詞交歓会を行う。
大阪万博を見据え官公庁及び関連団体との交流を密に情報収集し、また開催イベントに協賛して地域の活性化に寄与する。

- 【事業No.7】 E T / E T W E S T / E T ロボコン等 イベント参加
支部会員の ET 出展を促進する
JASA ビジョン 2030 を見据え会員企業のビジネスマッチング推進として、7月に
予定されている Edge Tech + west への支部会員の出展を斡旋する。

九州支部

1. 活動概要(2023年度の事業方針：事業予算案)

これまでの九州支部事業実績と「JASA ビジョン 2030」および「JASA3 か年計画」を踏襲し、
以下を遂行していく。

- (1)九州地区の特性を活かした事業を推進し、会員企業への貢献と組込みシステム技術の普及
啓発を行う。
- (2)九州地区における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化へ寄与する

2. 達成目標(完了条件)

3. 1年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

支部事業の遂行状況確認、および関連機関や団体との情報交流。

半期ごとに年4回開催(5月, 8月, 11月, 2月)。

支部会員を始め、九州支部が会員となっている福岡市 IoT コンソーシアムや福岡
エレクトロニクス交流会などの関連機関および地域の大学等々から来賓を招いて実施。

【事業No.2】 国内外視察調査

九州圏内の優良企業視察により、参加企業の交流を図る

九州圏内で参加企業を募集し、JASA 会員と参加企業のビジネスマッチングの場を
提供する。

優良企業視察により、視察企業とのコネクションを図る。

【事業No.3】 技術セミナー

(ビジネス交流委員会)

支部と連携した情報発信と、JASA プレゼンス向上、会員獲得

(ビジネス交流委員会)

交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、九州支部企画セミナーの3本
立てセミナーの開催。終了後、ネットワークキングパーティーを開催し、参加者間
の交流、JASA 会員獲得を狙う。

モノづくりフェアへの参加も検討を進める。

【九州支部】

集客方法や予算軽減なども考慮して、「日刊工業新聞社」様主催の「モノづく
りフェア」内での開催を検討する。

【事業No.4】 その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】 研究会

事業計画なし

【事業No.6】 交流会

事業計画なし。

【事業No.7】 E T / E T W E S T / E T ロボコン等 イベント参加

事業計画なし

IV 収支予算

2023年度予算

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人 組込みシステム技術協会
内訳書 全体

科目	2022年度予算額	2022年度実績額 配賦前	2023年度予算額	2023年度対予算差異	率	2023年度対実績差異	率	説明
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益		585		0	0%	-585	0%	
特定資産受利息		585		0	0%	-585	0%	
受取会費	41,500,000	38,628,000	39,000,000	-2,500,000	94%	372,000	101%	
正会員受取会費	38,000,000	34,828,000	35,000,000	-3,000,000	92%	172,000	100%	
賛助会員受取会費	3,500,000	3,800,000	4,000,000	500,000	114%	200,000	105%	
事業収益	175,334,280	145,116,319	178,065,957	2,731,677	102%	32,949,638	123%	
普及啓発事業収益	123,250,000	89,024,900	126,500,000	3,250,000	103%	37,475,100	142%	ET、ETロボコン
その他事業収益	52,084,280	56,091,419	51,565,957	-518,323	99%	-4,525,462	92%	その他事業
受取補助金等	0	0	0	0		0		
受取国庫補助金								
雑収益	830,000	683,866	830,000	0	100%	146,134	121%	
受取利息	270,000	247,627	270,000	0	100%	22,373	109%	定期預金
雑収益	560,000	436,239	560,000	0	100%	123,761	128%	印税
経常収益計	217,664,280	184,428,770	217,895,957	231,677	100%	33,467,187	118%	
(2) 経常費用								
事業費	119,513,934	86,784,689	113,797,194	-5,716,740	95%	27,012,505	131%	
役員報酬	0	0	0	0		0		
給与手当	0	0	0	0		0		
アルバイト料	627,000	0	0	-627,000	0%	0		
派遣料	0	0	0	0		0		
退職給付費用	0	0	0	0		0		
退職金共済掛金	0	0	0	0		0		
福利厚生費	0	0	0	0		0		
出向料	0	0	0	0		0		
会議費	6,560,000	2,535,948	6,300,000	-260,000	96%	3,764,052	248%	
旅費交通費	6,325,900	2,646,614	9,099,480	2,773,580	144%	6,452,866	344%	
通信運搬費	1,301,300	796,572	1,525,500	224,200	117%	728,928	192%	
減価償却費	0	0	0	0		0		
消耗什器備品費	0	0	0	0		0		
消耗品費	1,996,000	475,213	2,107,000	111,000	106%	1,631,787	443%	
印刷製本費	3,274,750	2,482,571	3,534,750	260,000	108%	1,052,179	142%	
賃借料	0	0	0	0		0		
支払報酬	10,595,328	7,344,308	7,805,629	-2,789,699	74%	461,321	106%	
支払手数料	579,330	288,804	300,835	-278,495	52%	12,031	104%	
新聞図書費	206,000	61,000	61,000	-145,000	30%	61,000		
水道光熱費	0	0	0	0		0		
租税公課	0	243,600	0	0		-243,600	0%	
会合費	13,221,900	5,320,062	13,770,000	548,100	104%	8,449,938	259%	
EDP費	538,736	738,556	1,778,400	1,239,664	330%	1,039,844	241%	
業務委託費	69,723,990	63,340,316	63,546,000	-6,177,990	91%	205,684	100%	
広報費	4,060,000	570,998	2,492,000	-1,568,000	61%	1,921,002	436%	
諸会費	0	0	0	0		0		
保険料	0	250	0	0		-250	0%	
雑費	503,700	877	1,476,600	972,900	293%	1,475,723	###	
管理費	94,560,616	89,208,707	102,715,511	8,154,895	109%	13,506,804	115%	
役員報酬	22,200,000	22,200,000	22,200,000	0	100%	0	100%	
給与手当	24,284,000	24,059,600	28,012,859	3,728,859	115%	3,953,259	116%	
派遣料	0	0	0	0		0		
退職給付費用	3,782,950	3,610,390	4,040,650	257,700	107%	430,260	112%	
退職金共済掛金	360,000	360,000	480,000	120,000	133%	120,000	133%	
福利厚生費	7,000,000	6,894,832	7,600,000	600,000	109%	705,168	110%	
会議費	3,002,000	244,109	3,384,000	382,000	113%	3,139,891	1386%	
旅費交通費	1,612,154	1,338,362	2,667,154	1,055,000	165%	1,328,792	199%	
通信運搬費	1,532,600	1,020,425	1,493,000	-39,600	97%	472,575	146%	
減価償却費	1,000,000	751,440	550,000	-450,000	55%	-201,440	73%	
消耗什器備品費	0	0	0	0		0		
消耗品費	560,000	203,116	610,000	50,000	109%	406,884	300%	
印刷製本費	284,208	212,095	684,208	400,000	241%	472,113	323%	
賃借料	9,030,384	9,030,384	9,030,384	0	100%	0	100%	
支払報酬	7,747,740	7,242,426	7,237,740	-510,000	93%	-4,686	100%	
支払手数料	124,420	127,479	174,420	50,000	140%	46,941	137%	
新聞図書費	100,000	96,816	100,000	0	100%	3,184	103%	
水道光熱費	600,000	703,644	600,000	0	100%	-103,644	85%	
租税公課	5,210,000	5,788,600	5,210,000	0	100%	-578,600	90%	
会合費	994,000	750,372	1,738,000	744,000	175%	987,628	232%	
EDP費	2,243,960	2,187,368	2,586,896	342,936	115%	399,528	118%	
業務委託費	572,000	462,000	572,000	0	100%	110,000	124%	
広報費	100,000	81,500	100,000	0	100%	18,500	123%	
諸会費	1,500,000	1,537,375	2,000,000	500,000	133%	462,625	130%	
保険料	313,200	217,836	313,200	0	100%	95,364	144%	
貸倒引当金繰入	7,000	11,000	7,000	0	100%	-4,000	64%	
雑費	400,000	77,538	1,324,000	924,000	331%	1,246,462	1708%	
経常費用計	214,074,550	175,993,396	216,512,705	2,438,155	101%	40,519,309	123%	
評価損益調整前当期増減額	3,589,730	8,435,374	1,383,252	-2,206,478	39%	-7,052,122	16%	
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益	0	1,500,000	0	0		-1,500,000	0%	
経常外収益計	0	1,500,000	0	0		-1,500,000	0%	
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	1	0	0	0%	-1	0%	
当期経常外増減額	0	1,499,999	0	0		-1,499,999	0%	
税引前一般正味財産増減額	3,589,730	9,935,373	1,383,252	-2,206,478	39%	-8,552,121	14%	
法人住民事業税	3,589,730	108,005	1,383,252	-2,206,478	39%	1,275,247	1281%	
当期一般正味財産増減額	0	9,827,368	0	0		-9,827,368	0%	
一般正味財産期首残高	220,894,450	220,894,450	220,894,450	0	100%	0	100%	
一般正味財産期末残高	220,894,450	230,721,818	220,894,450	0	100%	-9,827,368	96%	
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額								
指定正味財産期首残高								
指定正味財産期末残高								
III 正味財産期末残高	220,894,450	230,721,818	220,894,450	0	100%	-9,827,368	96%	

2023年度予算

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位：千円)

	収入				支出				収支				説明	
	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率		
	1. 事業推進本部	190	415	500	120%	6,947	3,814	6,220	163%	-6,757	-3,399	-5,720		168%
事業推進本部	90	360	400	111%	850	698	760	109%	-760	-338	-360	106%		
広報委員会	100	55	100	182%	6,074	3,116	5,348	172%	-5,974	-3,061	-5,248	171%		
政策提案委員会					23		113		-23		-113			
2. 交流推進本部	2,060	1,452	2,710	187%	10,761	3,774	11,692	310%	-8,701	-2,322	-8,982	387%		
国際交流委員会					1,417	22	1,817	8118%	-1,417	-22	-1,817	8118%		
ビジネス交流委員会	550	844	1,300	154%	6,264	3,391	6,555	193%	-5,714	-2,548	-5,255	206%		
人財交流委員会	1,510	608	1,410	232%	3,080	360	3,320	922%	-1,570	248	-1,910	-770%		
3. 人材育成事業本部	67,394	78,317	66,036	84%	60,009	64,215	59,568	93%	7,385	14,102	6,468	46%		
ETEC事業推進委員会	15,308	20,457	17,859	87%	9,550	7,336	10,050	137%	5,758	13,121	7,809	60%		
教育研修コンテンツ事業推進委員会	6,936	570	2,074	364%	5,450	1,118	1,818	163%	1,486	-548	255	-47%		
外国人技術者教育研修WG			4,600				6,200				-1,600			
ET技術者教育委員会	29,750	28,525	33,000	116%	29,750	28,526	33,000	116%		-1		0%		
JASAイノベーションチャレンジ実行委員会	15,400	6,369	8,503	134%	15,259	8,857	8,500	96%	141	-2,488	3	0%		
人材育成事業本部（スリランカ、高齢者）		22,397		0%		18,379		0%		4,018		0%		
4. 技術本部	2,746	64	4,026	6290%	17,514	5,762	15,504	269%	-14,768	-5,698	-11,478	201%		
技術本部	225		225		2,440	587	2,506	427%	-2,215	-587	-2,281	388%		
安全性向上委員会	532	64	532	831%	1,022	239	1,004	420%	-490	-175	-472	270%		
組込みシステムセキュリティ委員会	1,800		3,080		6,555	36	3,736	10284%	-4,755	-36	-656	1806%		
IoT技術高度化委員会	IoT技術高度化委員会	100		100		865	52	856	1632%	-765	-52	-756	1441%	
	ドローンWG					1,180	206	840	409%	-1,180	-206	-840	409%	
	スマートライフWG					110	102	220	216%	-110	-102	-220	216%	
	エネルギーハーベスティングWG													
応用技術調査委員会	OSS活用WG					209	34	224	656%	-209	-34	-224	656%	
	アジャイルWG	48		48		220		220		-172		-172		
	AI研究WG	41		41		90	30	190	637%	-50	-30	-150	501%	
プラットフォーム構築委員会	OpenELWG					313	342	286	84%	-313	-342	-286	84%	
	組込みIoTモデリングWG					570	618			-570	-618		0%	
	組込みDevOpsプラットフォームWG							2,010				-2,010		
ハードウェア委員会	RISC-VWG					3,840	3,496	3,322	95%	-3,840	-3,496	-3,322	95%	
	デバイスWG					100	20	90	456%	-100	-20	-90	456%	
5. ET事業本部	93,500	60,500	93,500	155%	7,890	869	1,654	190%	85,610	59,631	91,846	154%		
ET展示会事業運営委員会	93,500	60,500	93,500	155%	7,890	869	1,654	190%	85,610	59,631	91,846	154%		
事業本部合計	165,890	140,747	166,771	118%	103,121	78,434	94,639	121%	62,768	62,314	72,133	116%		

6. 支部	収入				支出				収支				説明
	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	
		5,750	1,025	7,480	730%	10,632	2,819	13,378	475%	-4,882	-1,794	-5,899	
北海道支部	51		24		64		24		-13				
東北支部	153		153		589	77	589	764%	-437	-77	-437	566%	
関東支部	1,150	162	900	556%	2,727	690	2,461	357%	-1,577	-528	-1,561	296%	
中部支部	1,056		1,721		2,033	203	2,974	1468%	-977	-203	-1,253	618%	
北陸支部					524	151	461	306%	-524	-151	-461	306%	
近畿支部	3,286	863	4,390	509%	4,624	1,699	6,359	374%	-1,338	-836	-1,969	236%	
九州支部	54		292		70		510		-16		-218		

7. 本部	収入				支出				収支				説明
	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	
		46,025	42,656	43,645	102%	100,321	94,741	108,496	115%	-54,296	-52,085	-64,851	
本部管理費・その他事業	43,570	40,308	41,190	102%	97,973	92,831	106,128	114%	-54,403	-52,523	-64,938	124%	
ブラッグフェスト実行委員会	2,455	2,349	2,455	105%	2,349	1,910	2,369	124%	106	439	86	20%	

8. 経常収支	収入				支出				収支				説明
	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	
		217,664	184,429	217,896	118%	214,075	175,993	216,513	123%	3,590	8,435	1,383	
経常収支													

9. 経常外収支	収入				支出				収支				説明
	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	
			1,500		0%		108	1,383	1281%		1,392	-1,383	
経常外経常収支													

10. 当期正味財産増減額	収入				支出				収支				説明
	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	2021年度修正予算	実績	2022年度予算	率	
		217,664	185,929	217,896	117%	214,075	176,101	217,896	124%	3,590	9,827	0	
当期正味財産増減額													